

## 2021年度活動概要

## EAP研究会

EAP 研究会は、学部・大学院レベルの研究および教育で重要となる EAP 教育に関する理論と指導実践の研究を主な目的として活動している。日本の EAP 教育環境に適した質保証の指標と EAP 教員コア・コンピテンシー枠組み構築に資する研究を研究会設立当初から行っている。2020 年度に引き続き 2021 年度もすべてオンラインでの研究活動となったが、8 回の研究会および諸々のミーティングの開催を通じて研究を遂行した。

具体的には、英国の EAP 教員学会である BALEAP の EAP 教員コンピテンシー枠組みを基盤とした自己評価ツールのプロトタイプを開発し、日本の大学で教える EAP 教員に使用してもらった。また、BALEAP 質保証基準を参照して開発した日本版の質保証指標プロトタイプを用いて、国内大学の EAP プログラム運営経験者に対してさらなる調査を行った。これらの研究は、科研費 JP19H01286（「大学英語教育の質保証指標モデルと EAP 教員コア・コンピテンシー枠組の開発」研究代表者：飯島優雅）の一部として行っている。

以上の成果を BALEAP Conference 2021 (2021 年 4 月 7 日)、The JACET 60th Commemorative International Convention (2021 年 8 月 27 日) での英国と台湾の EAP 専門家を交えてのシンポジウム、そして第 4 回 JAAL in JACET 学術交流集会 (2021 年 12 月 4 日) での研究発表および SIG ポスター発表を通じて公開した。聴衆との意見交換により、研究への有益な示唆を得ることができた。また、JAAL in JACET Proceedings, vol.4 (2022 年 3 月) でも論文を発表している。来年度は日本の EAP 教員や EAP プログラム運営者からのさらなる協力を得て研究を進めたい。また、上述の研究課題の最終年度となるため、質保証指標および EAP 教員コンピテンシー枠組み構築の研究成果をまとめ、JACET 国際大会や研究会主催のシンポジウムで発表を行う予定である。